

2019年(令和元年)8月24日(土曜日)

会見する豊岡武士三島
市長＝三島市役所で

報告書は、市産業振興部（当時）は、市の補助金交付要領に定められた審査会がなかつたにもかかわらず、（当時）は、市の補助金交付要領に定められた審査会を実施」と書き換えたと認定。「市側担当部局の審査会への認識が甘かつたのが原因。行政手続きや公金支出手続きの信頼を失いかねない行為」と指摘した。

書き換えた経緯は「上層部が指示した可能性が高いが、どの職員が指示したかは特定に至らなかつた」とした。市は今後、調査委と同様く梅原副市長をトップとする「職員懲戒処分等審査会」を立ち上げ、関係者の処分を検討する。

以上を対象とする倫理研修

三島市のPRを行い、市が事務局を務める「市地域ブランド推進協議会」に二〇一六年、市の補助金二百万円が必要な手続きを経ずに交付された問題で、市の内部調査委員会（委員長・梅原薰副市長）は二十三日、会議や書面送付による審査会が行われず、稟議書が書き換えられたとする報告書を公表した。だが書き換えについては「そもそも審査会の定義があいまい」とし、行為に違法性はないとした。（杉原雄介）

一方、書き換えの違法性については「審査会の招集や審査方法などのルールが定められてなく、『審査会とは何か』が不明瞭」として、公文書偽造などの罪には当たらないとの認識を示した。補助金交付の妥当性も「地場産品PRや商品開発の目的に反してない。使用途や金額は審査会委員が出席した協議会で説明されており、了承を得ていたと考えられる」と結論づけた。

再発防止に向け、係長級

の実施や、四月に策定したガイドラインに沿って補助金交付を見直すことも発表した。豊岡武士市長は「同じことを二度と起こさないのが大切。対策も取るの

で、今後は的確な事務が執

行できると思ってる」と語った。

この問題を巡っては、市

の担当者は当初「委員がい

た会議で話し合つて了承を

得たので、審査会がなされ

たとみなし」となどとして

いた。だが市民が「補助金

を不正交付させた」として

当時の幹部を刑事告発する

動きを見せたのを受け昨年

十二月、内部調査委が発

足。調査委は今月中旬ま

で、当時の産業振興部職員

や審査会委員らへの聞き取

りなどをを行つていた。

三島市補助金問題

書類書き換え認定

内部調査委 違法性は認めず